

総会・研修会報告

第32回日本白鳥の会研修会

第32回日本白鳥の会研修会は、2008年3月22・23日(土・日)に秋田県横手市十文字町の生涯学習センターを会場にして行われました。今回の研修会・総会の開催に当たっては、十文字町の西成辰雄をはじめ の協力をいただきました。

22日の研修会では、藤巻会長と来賓の五十嵐忠悦・横手市長の挨拶の後、続いて研究発表が行われました。

研修会の発表は8題といつもの年にくらべて多く、演題は次のとおりです。

角田 分(山形県)：白鳥の生態を追う，Vol. 2.

阿部 武(福島県)：コハクチョウの幼鳥割合.

本田 清(新潟県)：「羽衣伝説の白鳥」とは、西域に白鳥文化の源流をたずねて.

会田 仁(長野県)：150-0806・10年間の渡り.

荒尾 稔(東京都)：白鳥の餌付けから白鳥の自立へ、餌付けされた白鳥群を自立させるプログラム.

吉岡美佐子(滋賀県)：琵琶湖草津湖岸飛来観察記録.

梁田信吉(秋田県)：皆瀬川の白鳥と野鳥.

この後、質疑応答が行われました。この中で、餌付けの問題に関する質問がありましたが、この問題については会としてもアンケートを行い、実態を把握する計画です。

翌23日には、総会後に皆瀬川のハクチョウ渡来地で鳥海山をバックに記念撮影をし、ハクチョウ類を観察し、流れ解散となりました。

22・23日とも好天に恵まれ、真っ白な鳥海山がはっきりと見え、非常に印象深い研修会となりました。

第36回日本白鳥の会総会

第36回日本白鳥の会総会は、3月23日(日)に十文字町丹尾旅館で行われました。

会長挨拶の後、菊池昶史さんを議長に選出し、議事次第にしたがって、平成18年度収支決算、平成18年度予算、平成19年度収支決算中間、平成19年度事業について報告されました。今回監事は出席できませんでしたが、平成18年度決算について星子、山崎両監事の適正に執行されているむねの報告書が示され、決算・事業報告について承認されました。続いて平成20年度の予算案、事業計画について審議されました。決算については事務局費を計上すべきという意見があり、審議の結果平成20年度から事務局費を計上し、金額についてはその根拠を明らかにした上で試算を作成し、各役員の下承を得て決定することになりました。事業計画については、定時定点調査に罫調査を加えることが提案され、来シーズンからできるかぎり罫での個体数調査も行うこと

になりました。以上、いくつか修正された上、決算、予算とも承認されました。

続いて役員改選が行われました。役員は前日の役員会で推薦候補を挙げ、これを総会に提案して承認されました。平成20・21年度の役員は以下の通りです。

会長：藤巻裕蔵(北海道)、副会長：阿部學(東京)、古川博(青森)、本田清(新潟)、理事：阿部永、小西敢、芳賀孝行(以上北海道)、阿部誠一、斉藤正宏(以上青森)、佐々木弘(岩手)、川嶋保美、堺博(以上宮城)、角田分(山形)、鬼多見賢、八木博(以上福島)、本間一人、堀川 (以上新潟、ともに新)、菊池昶史(茨城)、松木勝彦(埼玉)、花積三千人(千葉)、荒尾稔、荻原政彦(以上東京)、川口雅登(石川)、会田仁(長野、新)、肥田嘉昭(滋賀)、神谷要(鳥取)。監事：山崎安紀、谷岡隆(以上北海道)。

今回の役員選挙では、会長に2名の候補が挙げられたが、役員会での話し合いの結果藤巻が推薦された。また、理事のうち服部哇作さんが退会により退任し、会田仁、本間一人、堀川 の3氏があらたに理事に選出されました。監事のうち星子廉彰さんが退会により退任、かわって谷岡隆が新監事となりました。なお、会長選挙に関し、全国をいくつかのブロックに分け、各ブロックで会長を持ち回りにすべきという意見が出されました。この件については次の役員会で検討することにしました。なお、名誉会員については昨年の総会での意見もあり(本誌31号参照)、今回は名誉会員の推薦を行いませんでした。

次の研修会開催地は、可能であれば福島県の夏井川が第一候補になりました。しかし、ここには本会の会員がいないため今後現地と協議していく必要があります。このほか、島根県の宍道湖・斐川、山形県酒田市、北海道厚岸町なども候補にあがりました。

平成18年度決算報告

収 入			
項目	予算額	決算額	備考
会費	1,184,000	568,000	会費
会費外収入	10,000	25,000	寄付
会誌収入	0	52,740	会誌販売
雑収入	0	107	預金利息
前年度繰越金	796,404	796,404	
計	1,990,404	1,442,251	

支 出

項目	予算額	決算額	備考
印刷事務費	200,000	181,650	会誌印刷170部
運賃通信費	109,000	67,570	事務連絡, 定時定点など
消耗品費	20,000	29,496	封筒, 宛名ラベル
負担金	20,000	40,000	国際湿地連合日本委員会
会議費	50,000	100,000	研修会, 総会
振込手数料	2,000	1,575	振込手数料
HP管理費	150,000	157,500	
予備費	1,439,404	2,740	弔電
計	1,990,404	580,531	

注) 負担金は平成17, 18年度分

1,442,251(収入) - 580,531(支出) = 861,720(平成19年度への繰越金)

平成18年度会計監査報告

会計監査の結果, 正に相違ないことを認めます。

監事 山崎 安紀 ㊟
星子 廉彰 ㊟

平成18年度事業報告

- 平成18年 3月11日 宮城県知事へ「ラムサール条約湿地・伊豆沼内沼に計画されている温泉施設建設の中止について」要望書を提出
- 9月27日 日本白鳥の会HP更新
- 10月4日 山階鳥類研究所に会誌23～29号を寄贈
- 11月1日 会誌「日本の白鳥」30号発行
- 11月25日 日本白鳥の会HP更新
- 12月26日 第35回日本白鳥の会総会・第31回研修会案内送付
- 12月28日 日本白鳥の会HPに総会開催内容掲載
- 12月29日 定時定点調査表配布(調査協力者へ)
- 平成19年 1月23日 日本白鳥の会HPに「日本の白鳥」の一部を掲載
- 2月10～11日 平成18年度第31回研修会「新潟県佐潟大会」
第35回日本白鳥の会総会

研修会参加者

会員

相澤庸郎, 会田仁, 阿部武, 阿部學, 大西智, 奥原良昌, 角田分, 川口雅登, 川久保昭治, 菊池昶史, 小西敢・可奈・愛海, 佐久間拓城, 谷岡隆, 遠山敏子, 中村大輔・

聡子，西成辰雄，根津京子，萩原政彦，花積三千人，藤卷裕蔵，古川博，星子廉彰，堀川大輔，本田清，本間一人，松木勝彦，村本正治・禎子，望月明義・和子，八木博，吉岡一成・美佐子。

地元関係者ほか

朝平修一，阿部幸雄，市嶋彰，井上信夫，岡田成弘，倉島百合子，小松隆宏，斉藤敏郎，佐藤安男，篠田昭，高見優，武樋洋，橘由紀夫，西方宥至，福原晴夫，藤田正，松木保，諸橋潔，山田洋子，渡辺重雄

お知らせ

本会は2008年3月に日本白鳥の会のメーリングリストを立ち上げました。参加希望者は管理責任者(荒尾稔 minoruarao@tml.co.jp)に連絡してください。

これは日本白鳥の会の会員間でハクチョウ類に関する情報を共有することを目的としています。渡来情報などどんどん発信して下さい。メール添付を含めて制限はほとんどありません。